

文部科学省検定済教科書

7実教 家総303

高等学校家庭科用

2015 家庭総合

パートナーシップで
つくる未来

家庭 総合



実教出版

2

私たちの社会福祉

地域のスーパーマーケットやコンビニで買い物をする時、レストランで食事をする時、「不便だな」と感じたことはあるだろうか？



商品が高くて手が届かない。



ベビーカーを押して、子どもを連れてくる親のために、休憩室があったらいいのにな。



耳の聞こえにくい人のために、レジに大きく金額がうつればいいのにな。



バイキングのレストランでは、車椅子のおじいちゃんは、自由に動きにくい。通路が広ければいいのに。

1 共に生きるとは

子どもも大人も高齢者も、男性も女性も、障がい者も、みな自分の生活や人生の主人公になりたいと思っている。そして、それを互いに保障しようというのが世界の動きである。

国際障害者年（1981年）における**完全平等・完全参加**の主張、障がいがあっても地域であたりまえに暮らすという**ノーマライゼーション**（囲み）の考え方の浸透、男女共同参画社会の提起、子どもの権利条約の批准、そして**国際高齢者年**（1999年）は、社会に暮らす一人ひとりの自立と参加をめざしている。そして、私たちがこの社会を「自分自身の社会」であると感じられるように、社会的に支えあっていく必要がある。

近年、景気の停滞や、家族規模の縮小、近隣への無関心などにより、心身の障がい・不安、社会的な孤立や孤独に陥る人が増える一方、身近に支えあう機能が弱まるなかで、社会的な支えを必要としている人が増えている。このような状況のなか、自発的な助けあいの活動も進んでいる（次ページ囲み）。だれもが「助けたり、助けられたり」という、一人二役が必要になっている。

ノーマライゼーションの考え方

ノーマライゼーションとは、障がいのある人もない人も、だれもがあたり前に生活できる社会こそ正常（ノーマル）な社会であるとし、そのよう

な社会の実現をめざそうという考え方で福祉の取り組みは進んでいる。だれにとっても住みやすいまち、使い勝手のよいものをつくりだそうという考えである。

2 地域で支えあう暮らし

地域には、さまざまな人が暮らしており、その生活は多様で、公的な制度やサービスだけでは支えきれないことも多い。たとえば、介護保険制度で提供されるサービスには、暮れの大掃除や家族同様に暮らしているペットの世話などは含まれない。また、子どもの安全な暮らしや、地域の防災・減災なども大きな課題である。地域の安心・安全な暮らしを守り、つくるために、助けあいができるのは、近隣の住民や、自治会・町内会などの地域団体や、市民団体・NPO、事業者などである(図3)。

図3▶助けあいの担い手はだれ?

地域福祉を進めるのはだれだろう。地域福祉は、さまざまな人や団体によって支えられている。

地域住民



自治会・町内会



一般企業



商店街



民生委員・児童委員



ボランティア



社会福祉従事者



その他、NPO法人、ボランティア団体、住民参加型在宅サービス団体、農業協同組合、消費生活協同組合、社会福祉法人、地区(校区)社会福祉協議会、福祉関連民間事業者など。

***1 協働** たとえ志に多少の相違があっても、重ね合わせることでできる共通の目標に向かって、協力関係を結んでいく考え方。

地域で支えあう暮らしをつくるには、そこで暮らしている多くの人たちの参加が必要であり、行政・市民団体・事業者などの協働が欠かせない。それぞれが得意分野を持ちより、支えあいのしくみをつくっていくことが大切である。

地域みんなの福祉を進める時に大きな手がかりとなるのが、地域福祉計画である。多くの市民が参加して、だれもがその人らしい安心で充実した「幸せ」な生活が身近な地域で送れるようにするため、市区町村は地域福祉計画を立てることが大切である(社会福祉法第107条)。人々が地域のさまざまな暮らしに関心を持ち、地域を理解し、自分のまちの福祉についてだれもが参加して話し合える「場」づくりが必要となってきた(囲み)。

私たちには、地域に暮らす住民として、一人二役で人間同士がふれあいながら幸福を実感できる地域社会をつくっていくことが求められている。地域福祉の担い手であることは、個人個人が何か「やることをお金で買う」ことで満足を得るのではなく、「何か役に立つことをする」ことで心が動かされ、人とつながるといふ充実した生き方が育まれることにもなる。

つどいの場「さくらちゃん」

兵庫県西宮市にある「さくらちゃん」は、介護している人、介護職の人がちょっと息抜きをした時、お茶を飲みながら、おいしいお昼ご飯を食べながら一息つく場である。アマテラピーやピ

ーズ手芸などの各種イベントも行われている。介護が必要な人と一緒に参加できるのも特徴である。外に出かける「おでかけタイ」、地域の介護力をアップする「学びタイ」、介護者の代わりに見守りをする「見守りタイ」も活動している。その活動には、ボランティアが活躍している。